

## 2004 年度（平成 16 年度）第 3 回理事会記録

日 時：2004 年 12 月 18 日（土）14:00～16:45

場 所：八重洲倶楽部第 11 会議室

出席者：廣川信隆（理事長）、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平（以上、常務理事）、井出吉信、大野伸一、木山博資、近藤尚武、正村静子、菅沼龍夫、杉浦康夫、仙波恵美子、高野吉郎、竹内義喜、武田正子、福本哲夫（以上、理事）、上田秀一（監事）、依藤宏（幹事）、天野恵子、合力靖博（以上、口腔保健協会）

欠席者：内山安男（監事）

### 、理事長挨拶

第 16 回国際解剖学会議の成功に対する御礼、学会事務センターの破産に伴う口腔保健協会への学会事務引き継ぎの現状紹介に続き、学会議の改組、国立大学の法人化、医歯学部卒業生の研修義務化などが基礎科学である解剖学に及ぼす影響には予断を許さないものがあり、サイエンスをするものとしての本道を忘れず、まとまってネガティブな面のできるだけ出ないように努力してゆきたいとの挨拶があった。

なお、この理事長挨拶に引き続き、新しく学会事務を担当することになった口腔保健協会 天野恵子学会部次長より挨拶がおこなわれた。

### 、議事録署名人の選任

議事録署名人として正村静子、仙波恵美子の両理事が選任された。

### 、会議記録の確認

1 , 2004 年（平成 16 年）度 第 2 回理事会記録、同摘録、同議事録（案）

2 , 2004 年（平成 16 年）度 総会・学術評議員会記録、同摘録、同議事録（案）

### 、報告事項

#### 1 . 庶務報告（高田庶務担当理事）

##### （ 1 ）業務委託先の変更

学会事務センターの破産に伴い、学会事務委託先が財団法人口腔保健協会に変更されたことが報告された。なお、この件に関する「お知らせ」は全会員に直接郵送されたほか、解剖誌にも掲載され、また会費納入については以前と同様の口座が利用可能となった事もあわせて報告された。

##### （ 2 ）平成 17 年度科研費審査委員候補者選出

標記候補者選出に関する変更点、選挙の進行状況につき報告がなされた。

##### （ 3 ）平成 17・18 年度役員選出選挙

標記役員選出選挙の進行状況、今後の予定につき報告がおこなわれた。

##### （ 4 ）その他

### 1) 第 19 期解剖学研連委員会第 2 回会議報告

学会議の改組について（詳細は日本学会議ホームページあるいは平成 16 年度第 3 回常務理事会記録をご参照下さい）。第 21 回形態科学シンポジウム：2005 年 9 月までに藤本豊士名古屋大学教授が中心となって開催することになった。「動物実験に対する社会的理解を促進するための提言」を冊子として公表した。以上 3 点が報告された。

2) 公募のおこなわれた科研費時限付細目に関し、学会議第 7 部では解剖学研連から希望を出した「再生医学」「疼痛学」のうち、「疼痛学」を第一位として提出したとの連絡を井端学会議会員より受けた旨、報告があった。

### 3) ウラン規制

文科省原子力規制室よりの少量使用における許可制の概要案について説明があった。なお、「少量核燃料物質の規制に関する要請」について現在意見を徵募中である旨が伝えられた。

## 2. 編集報告（柴田編集担当理事）

### (1) 解剖学雑誌および ASI 刊行報告

両誌の 79 巻 4 号を日通メールセンターから発送したことが報告された。

### (2) 平成 17 年度科研費（研究成果公開促進費）公募説明会報告（この項は高田理事よりの報告）

2004 年 10 月 14 日開催された標記説明会について報告がおこなわれた。

### (3) 平成 17 年度科研費（研究成果公開促進費）申請

例年に近い形で申請した旨、報告がなされた。

## 3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

### (1) 第 16 回国際解剖学会議

標記会議の参加者数、IFAA 総会の結果について報告がおこなわれた。参加者は 48 カ国 1654 名で前回ローマの 955 名、1994 年リスボンの 645 名、1975 年東京の 1156 名(40 カ国)を大きく上廻り、内容面でも成功であったと言える。IFAA 総会には 19 カ国の代表が参加、廣川理事長が vice-president に選出された。また次回は 2009 年に南アフリカケープタウンで開催されることが決定した。

### (2) 第 110 回日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

標記につき大谷修会頭よりの報告が紹介された。今大会の特徴としてはメインテーマは「解剖学教育」、学術委員会の提案を大幅に採用、学生セッションの企画、お祭りの要素を排除し、地方でも開催可能となるように配慮、日米合同シンポジウムでは「Vascular Biology」をテーマとしたなどである。

### (3) IFAA と京都宣言

IFAA の News Letter 「Plexus」の 2004 年 12 月号について報告がおこなわれた。主な内容としては IFAA の新役員の紹介、第 16 回国際解剖学会議におい

て京都宣言が採択され、各国の解剖学会がいろいろな形で利用できるようになったこと Gunter von Hagens 博士のプラスチック標本の展示 “Body-World Show” に関するドイツ解剖学会からの倫理的問題についての抗議 第 4 回 APICA が 2005 年トルコにおいて開催 第 17 回国際解剖学会議は 2009 年南アフリカで開催 第 16 回国際解剖学会議結果報告などである。

(4) 第 4 回 APICA

標記会議は 2005 年 9 月 7 日～10 日トルコのクサダシにおいて開催される。この会議に関し、International Scientific Advisory Board に日本から 3 人推薦するよう依頼があり、専門性を考慮の上、坂井建雄順天堂大学教授、高田邦昭群馬大学教授、渡辺雅彦北海道大学教授を推薦した旨、報告があった。

(5) 平成 16 年度日本解剖学会奨励賞申請状況

3 件の応募があり、12 月 27 日開催される委員会で受賞者の選定がおこなわれる予定である。

(6) 平成 16 年度日本解剖学会解剖組織技術士功労賞申請状況

12 月 31 日が締め切りであるが、現在までに申請はなく、教室内あるいは関連教室で該当者がいれば申請して頂きたい旨、要請があった。

(7) 篤志献体協会・篤志解剖全国連合会公開シンポジウム「コメディカルの解剖学実習教育」について

標記につき、実りのあるシンポジウムであった旨、報告があった。

4. 会計報告(山科会計担当理事)

(1) 事務局移転に伴う預金口座の管理法について

解剖学会関連の銀行口座として事務局近隣の銀行支店に 2 口座を開設、片方は事務局用の当座の運転資金のための口座とし、もう一方は解剖学会名義で印鑑は会計担当理事の管理とする。そして前者の残高が少なくなると事務局の要請により、後者の口座から必要額を移すことにより運用する。また年会費等の送金用の郵便局口座は住所変更のみに止める。以上の口座管理法が報告された。

(2) 学会ユーティリティセンターの倒産に伴うバックナンバーの保管・処分

学会事務センターの子会社で、雑誌の保管、発送等を請け負っていた標記会社が 10 月 20 日倒産し、預託中のバックナンバー約 7,000 部を引き取るよう要請があった。別会社に預託することも検討し見積もりを取ったところ月 5 万円、別途運送費もかかることから、以下の処分法をとることが決定、報告された。保管部数は当該年度は 100 部、前年度は 30 部、それ以前は 2 部(うち 1 部は製本し、1 部は分冊のまま)を保存し、それ以外は処分する。保管場所は弥生の学会事務所(定款による学会所在地)とする。但し、当該年度のものは口腔保健協会に保管を依頼する。

(3) 平成 16 年度仮決算書(案)

標記仮決算書について報告、内容の説明がおこなわれた。

(4) 支部学術集会収支報告

中部支部および近畿支部学術集会の収支報告書が提出された。なお、地方会抄録掲載料の徴収方法については各支部の判断に任せることとなった。

(5) その他 学会費長期滞納除名対象者の扱いについて(この項は高田理事より)

学会費の滞納は3年目で除名となるが、今年度は学会事務センターの倒産のため例年秋におこなわれている督促がなされていないので、支部長より個別に連絡して頂きたい旨、要請があった。

・ 審議事項

1. 学会事務委託契約

財団法人口腔保健協会との学会事務代行契約書が提示され、審議の結果承認された。なおこの件は8月23日開催された第2回理事会において、学会事務センターの後継会社の選定については常務理事会に一任することが承認された。その後、常務理事会では口腔保健協会に委託する案をまとめ、10月8日付で契約書案を添付の上、理事会にその可否についてメールによる審議を依頼した。その結果は理事17名中14名が賛成、1名が常務理事会に一任、2名が返答なしであり、常務理事会では承認されたものとして、口腔保健協会との契約を進め、この理事会において最終的な確認がおこなわれたものである。

2. 平成17年度事業計画(案)

標記計画(案)が提出され、審議の結果「日米合同シンポジウムの開催」を追加して承認された。なお、この件に関連し、学会としての個人情報の管理についての考え方が示された。

3. 平成17年度仮予算(案)について

標記仮予算(案)が提示、説明がおこなわれ、審議の結果承認された。なお、この承認は現制度では会計年度が1月1日をもって新年度となるため、1月1日以降の支払につき必要なものである。

4. 入会申込書改訂

事務委託先の変更を機会に、入会申込書を新しくすることになり、その改訂案が提示、承認された。従来との大きな変更点は会費納入が従来は常務理事会の承認後であったが、手続きが煩雑であり、また入会申込には評議員の推薦が前提となっているので、先払いとした点である。なおこの件に関連し、賛助会員用の同様の入会申込書作成の要望が出され、常務理事会でその様式を検討することとなった。

5. 日本学術会議会員候補者の情報提供

日本学術会議から会員候補者の情報提供の依頼が10月25日付の文書で届いた。時間的な制約から理事による投票に、学術会議よりの条件を勘案し候補者案を作成し、候補者に情報提供を求めることになった。(詳細は平成16年度第7回常務理事会記

## 録 . 5 . 参照)

上記の方法で作成された常務理事会案(メールによる審議では理事会においても既に承認済)が提示、承認が確認された。なお、最終的な候補者案は高田邦昭(11)、廣川信隆(11)、仙波恵美子(9)、藤本豊士(9)、片岡勝子(8)、正村静子(8)、山科正平(8)、河田光博(7)、柴田洋三郎(7)、牛木辰男(5)、渡辺雅彦(5)(敬称略、カッコ内は理事による投票の得票数)である。

### 6 . 平成 16 年度永年会員推薦

標記候補者案が提示され、承認された。

### 7 . 学術委員会最終答申

「学会の将来を見据えての学術集会のあり方についての検討」に関する学術委員会(藤本豊士委員長)の最終答申が提出、承認された。なお、第 110 回全国学術集会ではこの答申内容の一部を取り入れた企画・運営がなされている。

### 8 . 学術集会時における各種集会の取り扱いについて

標記に関し、第 110 回解剖学会総会・全国学術集會会頭大谷修教授より、学会としてあるいは学術集会担当校として各種集会をどこまでサポートすべきかの検討を要望する旨の申し入れがあった。理事会でこの件について審議した結果、「引き受ける会頭の立場、財政状況に応じ、各種会合には解剖学会の活性化のためにできるだけ配慮をお願いし、会頭はあらかじめできる範囲の条件を提示する」とすることが決定された。

### 9 . ASI 次期編集長の選任

現編集長井出千束・京都大学教授の後任として山科正平・北里大学教授が承認された。

### 10 . その他

- 1) 会員情報の把握について：学術評議員有資格者の把握については現状では事務局の負担が大きく、何らかの改定が必要との案が出され、次回成文化して再提案することで了承された。また古い会員の死亡通知等はなるべく早く事務局に連絡するよう要望がおこなわれた。
- 2) 解剖実習中の室内環境に関して：週刊誌より全国の医科大学・歯科大学、大学医学部・歯学部に、標記に関するアンケートが届いている。この件については解剖学会としては統一の見解を出すことはせず、個別に対応して頂くことが了承された。なお、実習中の室内環境の改善に関し解剖台の設計などハード面での対応、遺体の処置の際のホルマリン濃度、アルコール置換の期間などソフト面での対応が考えられ、これらの検討を解剖体委員会で検討して頂くことになった。
- 3) 「解剖学教室」の名称の消失に対する対応策について：少なからぬ数の「解剖学教室」が名称変更されている現状から「解剖学」の存続に危機感を持ってお

り、国際解剖学会議での「京都宣言」などを利用して「解剖学」の存続を広く訴えてはどうかとの意見が出された。この件については、今後その対策を常務理事会において検討するとされた。

- 4) 次回理事会（次期理事就任予定者との合同理事会）開催予定：平成 17 年 2 月 5 日（土）午後と決定された。